

### (3) 分野別現状と課題

#### ア NOSAIオホーツクにおける現状と課題

オホーツク農業共済組合 女満別家畜診療所 診療所長補佐 荒井 桂

オホーツク農業共済組合は北海道の東北部に位置し、オホーツク総合振興局管内の4つのNOSAIが合併し、平成20年4月に発足した。合併により獣医師は100名を超え、他に人工授精師、業務職員合わせて200余名の全道で十勝に次ぐ規模の組合になっている。実施している事業は農作物、畑作物、家畜、園芸施設などであり、主に麦、甜菜、馬鈴薯などの農畑作と酪農及び肉牛生産（黒毛和種）を主体とした加入引き受けを行っている。

当地区は、冬期間の寒さは厳しいものの比較的穏やかな気候と日照時間に恵まれ、この気候と土壤を活かし畑作と酪農を中心とした生産性の高い農業を展開しており、日本の食糧生産基地として重要な役割を担っている地域のひとつである。

また当組合管内は、原始の自然がそのまま残されている世界遺産知床を有し、さらに1月の末から3月にかけてはオホーツク海特有の流氷で海が覆われるなど、豊かな自然景観にも恵まれて、春夏秋冬、大勢の観光客が訪れる。

当組合での家畜の引き受け頭数は、平成25年実績で胎子を含み乳牛およそ20万頭、肉牛3万頭、馬500頭、豚1万頭弱、種雄畜33頭などで、現在101名の獣医師がその診療に携わっている。

当組合は臨床現場にいる獣医師99名のうち18名が女性獣医師であり、彼女達の仕事状況、仕事内容においては男性獣医師と比較しても全く差異はなく、管内各診療所で大いに活躍している。女性獣医師の年齢構成は50代40代が2名いるが、ほぼ30代と20代で構成されており、未婚の獣医師が大半である。しかし最近は既婚者が増えており、妊娠中で内勤の人、育児休暇中の既に2人目3人目を産み育てている人など様々である。

子育て中の彼女達を見ていると本当に大変そうで、子供の急な発熱等で仕事を休まなければならないことが多々あり、私達まわりの獣医師はその都度人員をやりくりしてサポートしている。

女性が働いていく中、結婚、妊娠、出産、子育ては当然起こり得る事象であり、それを支えていくために設定されている当組合の職員就業規則から、これらに関する部分を抜粋してみる。特別休暇として結婚1年内の連続する7日間の休暇、産前産後休暇として産前6週間（多胎の場合は14週間）と産後8週間の休暇が定められている。また、育児休業制度として子が1歳になるまで、その他の事情により1歳6カ月までの休業、また復

職後、子1人につき5日間の看護休暇も男女問わず認められ、他にも妊産婦の検診のための制度もある。

獣医師として働く場合、夜間当番があるが、子が小学校へ就学するまでの間、深夜（午後10時から午前5時まで）の業務の制限を請求する事が出来る。また、就業時間を育児短時間勤務として午前9時に始業し午後3時に終業する事も出来る。以前の産前6週、産後8週の休みしかなかった時代に比べると制度も色々と充実してきてはいるが、ぎりぎりの人数で稼動している現状では整備された制度を十分に活用できるゆとりはない。そのため、子供がまだ小さいうちから夜間当番に入り、フルタイムで就業してもらっているのが現状である。

管内9診療所に女性獣医師はそれぞれ1～2名ずつ配属されているが、当組合の本部がある北見家畜診療所は、在籍する獣医師の20名中5名が女性であり、更にその女性獣医師は全員が既婚者で2～3名の小さな子供をかかえながら診療業務にあたっている。このような妊娠、出産、子育て適齢期の女性獣医師が多数在籍する診療所では、様々な問題、軋轢が生じている。

ここにNOSAIオホーツクで仕事と子育てを両立させている女性獣医師たちから寄せられた切実な思いを伝えたいと思う。

妊娠による内勤や育児休業による欠員の補充がなされていない。そのため欠員は内部の人員で補うしかなく、欠員をカバーする獣医師には日中の診療件数の増加と夜間当番回数の増加等により精神的にも肉体的にも負担を強いられる事となる。復職後も夜間当番をしてない事や子の看護ための休暇や早退のたびに子供を持つ女性獣医師は精神的負担が積み重なっていく。職場での理解と協力を得る代わりに、他の獣医師へ負担と犠牲を強いているこの現状を開けて欲しい。彼女達が一番強く思っているのは女性獣医師の妊娠による内勤、出産後の育児休暇の取得が診療所内の他の獣医師の負担とならないような人員配置をして欲しい、ということである。

今のようなぎりぎりの人数だと他の獣医師に負担をかけるという思いから、妊娠が分かっても素直に喜べなかったり、次の子が欲しくても差し迫る業務処理と他の獣医師の疲労などを見ると二の足を踏んでしまうとも言われる。また、妊娠がわかつても内勤にして欲しいと言えず体調不良を我慢してしまう、妊娠中期を過ぎお腹も目だって來たので翌月からの内勤を申請したところ、人手が足りないのでもう少しの間診療に出て欲しいと言われ、まだ外勤を続けているなど組合の人員配置に配慮の足りない部分が多数みられる。

また、組合の広域合併により人事異動も広範囲となり、共働き獣医師の場合、夫婦で協力体制をとて仕事と育児の両立をさせているが、夫婦のどちらかが移動になると遠隔地での宿泊夜間当番となり、仕事をしながら

の子育て全てが母親の負担となるので、子供が小さいうちは夫婦を同一勤務地にして欲しい、などなど様々な思いが寄せられている。

現在、当組合での女性獣医師の結婚相手は同じ職場の獣医師、人工授精師、業務職員、勤務地域の酪農家などが多く、勤務場所への配慮がなければ仕事と家庭の両立は困難になる。前述の当組合の就業規則には、就業場所の変更により子の養育が困難となる場合、組合は子の養育に配慮しなければならない、という規定があるにもかかわらず、人事異動により様々な軋轢が生じているのも事実である。

昨今、獣医学部に通う学生の半数は女性である。獣医師国家試験による免許取得者は、数年も前からその半数は女性である。すなわち、あと10年から20年も経てば獣医師が勤務する職場の殆どはその半数が女性獣医師で占められるということになる。私たち産業動物分野においても間違いなくその男女比は限りなく均等に近づいていくものと思われる。その時、女性獣医師の妊娠、出産、子育てを今のように同僚の獣医師の善意や努力だけで支えていけるものであろうか。そのモデルケースのような当組合の1診療所に起こっている問題は、いずれ全国のNOSAIの全ての診療所で起こり得ることである。

しかし、私たちのように僻地の農村で勤務している獣医師にとって、代替要員など募集しても集まらない現状がある。都会と違い、OBの方々以外獣医師という資格を持った人がいないのである。ましてや明日から牛の診療をしてくれる人など皆無である。

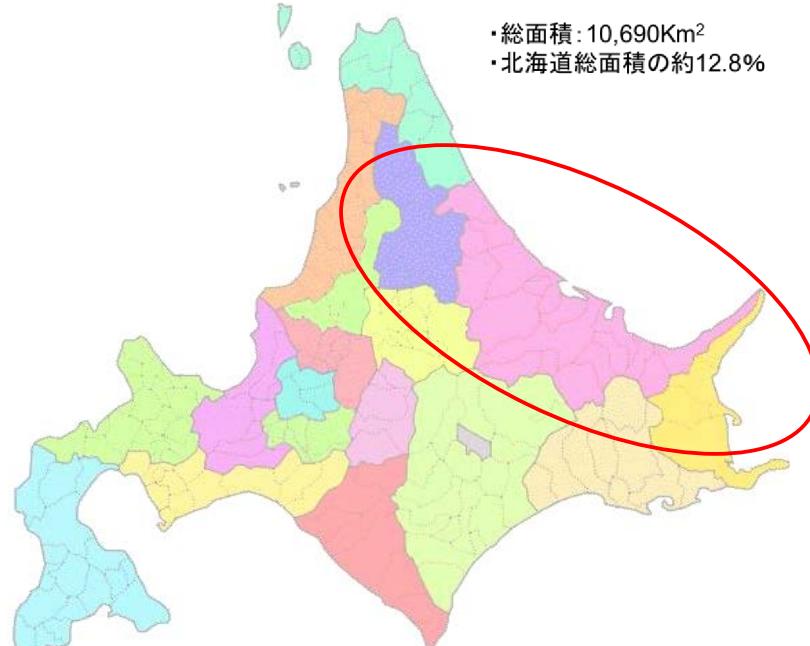
これらの事象から獣医師を雇用する全ての事業主は、雇用した獣医師がいずれ妊娠、出産し、育児休暇においては男女問わず取得するものとし、その対策を講じておくべきと考える。

今、産業動物臨床に就く獣医師が減少していると聞く。そんな中でも高度な教育を受けた若く優秀な獣医師が私たちの産業動物分野を選んで来てくれていることを大変嬉しく、また、頼もしく思う。この優秀な獣医師たちが出産や子育て等の理由で途中離脱することがないように、そして全ての獣医師が適正な労働環境の下で活躍していけるよう、この業界に携わる人々が考えるべき時期はもう既に来ていると思う。

# NOSAⅠ オホーツクに おける現状と課題

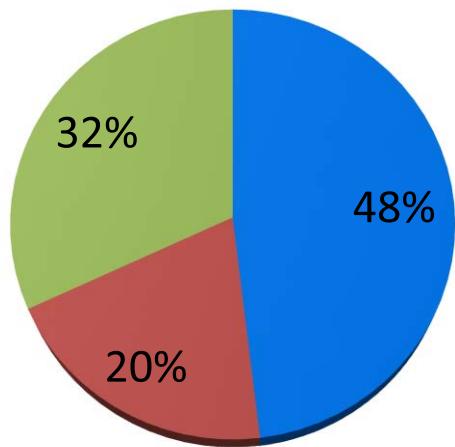
オホーツク農業共済組合 大空支所女満別家畜診療所 荒井 桂

・総面積:10,690Km<sup>2</sup>  
・北海道総面積の約12.8%



## 職員数内訳

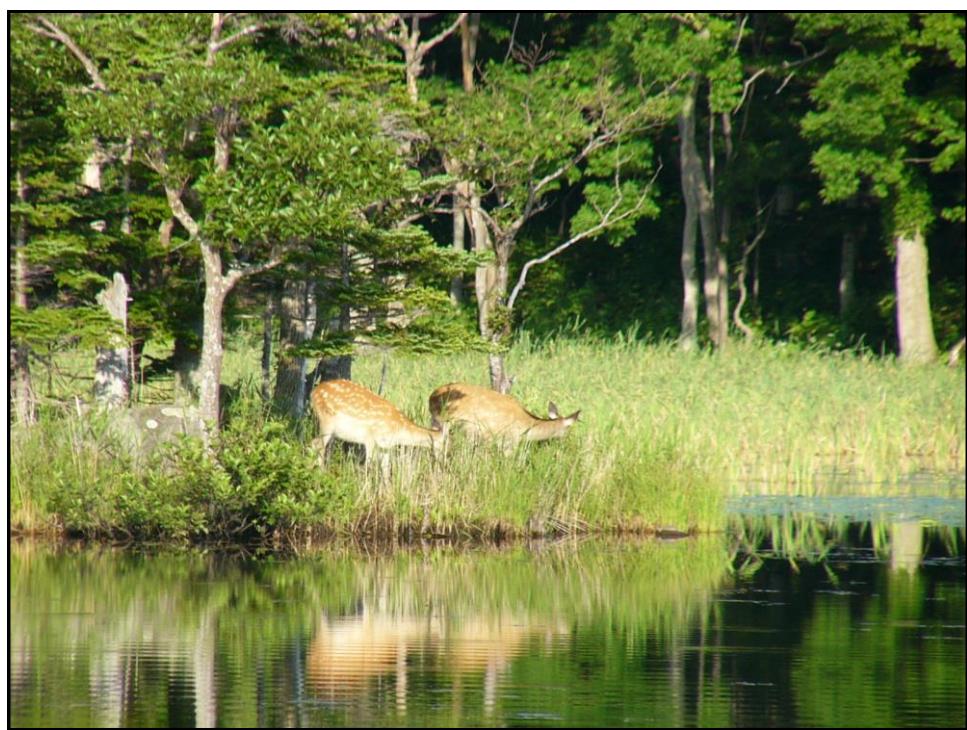
■ 獣医師 ■ 人工授精師 ■ 業務職員



H26.4.1 現在











## 概要



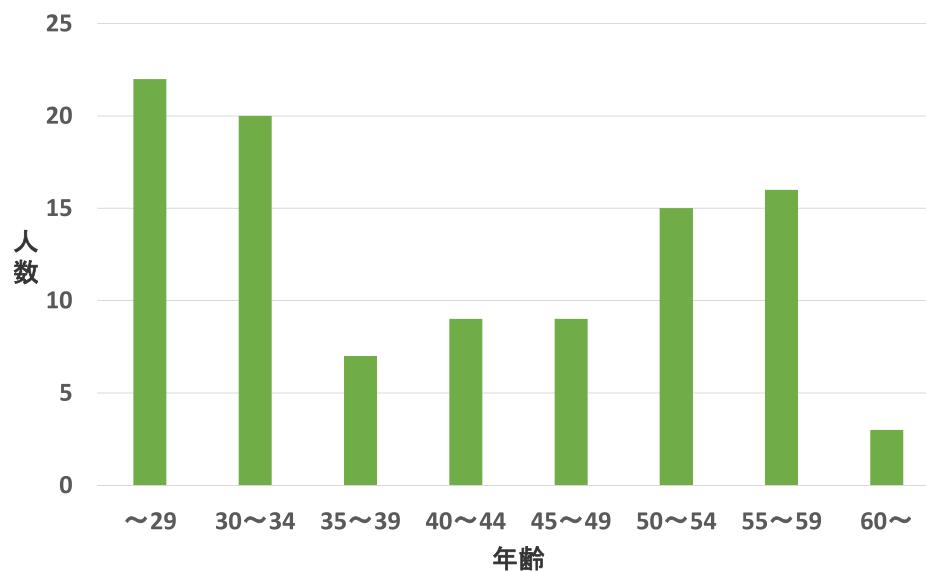
### ➤NOSAI才ホーツクについて

乳牛20万頭 肉牛3万2千頭  
獣医師 101名 臨床獣医師99名 女性獣医師18名

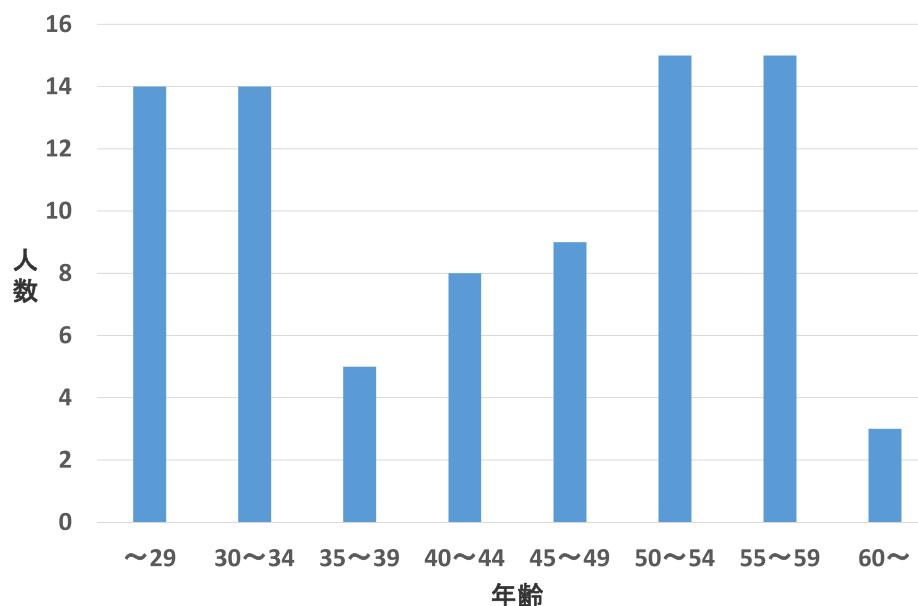
### ➤女性獣医師達の思い



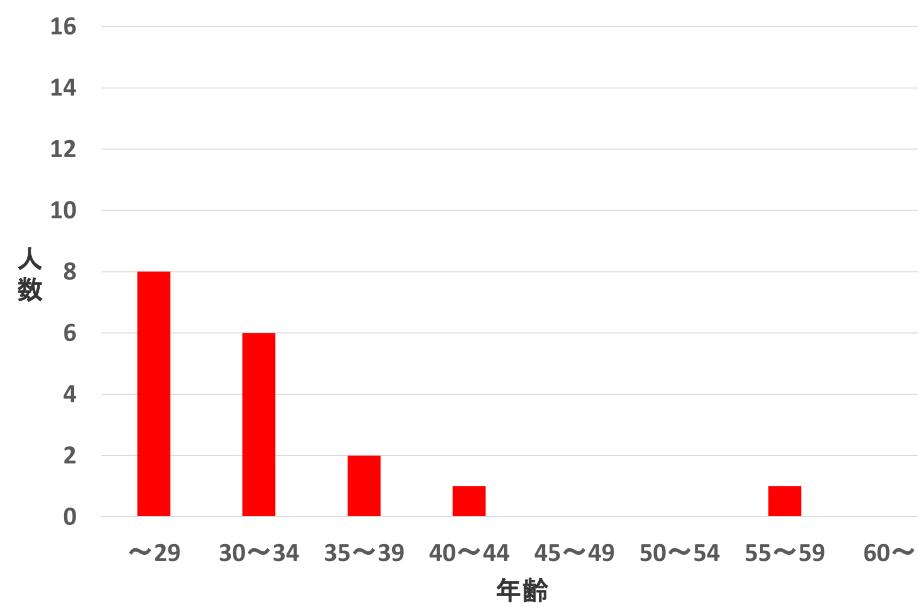
獣医師の年齢構成



### 男性



### 女性

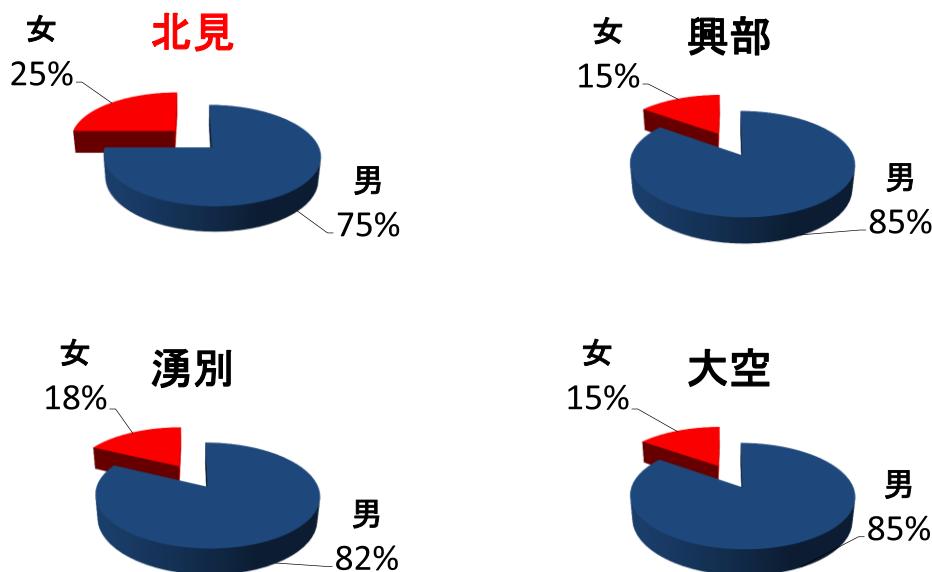


## 職員就業規則から

- ① 結婚のための特別休暇
- ② 産前産後の休暇
- ③ 育児休業制度
- ④ 看護休暇
- ⑤ 妊産婦検診制度
- ⑥ 育児短時間勤務
- ⑦ 深夜業務の制限



### 獣医師・支所別男女比



### 女性獣医師たちの思い

①妊娠・出産・育児などの休暇の取得が  
他の獣医師の負担とならないように  
**欠員補充をしてほしい**

②子供が小さいうちは  
**勤務地への配慮をしてほしい**



